



CODE
for JAPAN

Society5.0に向けた 浜松市への期待

一般社団法人コード・フォー・ジャパン
浜松市フェロー
内閣官房IT室 CIO補佐官
関 治之



本作品は[クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) ライセンスで提供されています。
ご利用の際は、クレジット表記として[Code for Japan](https://codeforjapan.org/) [関 治之](#) を付与願います。

コロナ禍により、行政のDXが主眼に

デジタル庁創設へ基本方針 年内に、首相指示 初の閣僚会議

菅内閣発足 経済 政治
2020/9/23 11:11

保存 共有 印刷 共有 ツイート その他



デジタル改革関係閣僚会議の初会合であいさつする菅首相（23日午前、首相官邸）

政府は23日、首相官邸で菅政権の看板政策、デジタル改革に関する関係閣僚会議を開いた。菅義偉首相は行政のデジタル化をけん引する「デジタル庁」創設に向けた基本方針を年内にまとめるよう指示した。2021年1月に召集する通常国会に必要な関連法案を提出する方針も明言した。

担当する平井卓也デジタル改革相のほか、河野太郎行政改革・規制改革相ら全閣僚が出席した。政策テーマ別で全閣僚が集まる会議は菅政権の発足後で初めてとなる。

首相はデジタル庁について「官民間問わず能力が高い人材が集まって社会全体のデジタル化をリードする組織にする必要がある」と語った。「そのための検討を加速し年末には基

システム標準化22年度から

自治体に導入義務付け

2020/10/5 06:11 (JST) | 10/5 06:17 (JST) updated

©一般社団法人共同通信社



システム標準化の対象となる自治体の17業務

住民基本台帳、選挙人名簿管理、固定資産税、個人住民税、法人住民税、軽自動車税、国民健康保険、国民年金、障害者福祉、後期高齢者医療、介護保険、児童手当、生活保護、健康管理、就学、児童扶養手当、子ども・子育て支援

システム標準化の対象となる自治体の17業務

自治体でもハンコ廃止推進 河野行革相、マニュアル作成

菅内閣発足 政治
2020/10/6 21:00

保存 共有 印刷 共有 ツイート その他

河野太郎行政改革・規制改革相は6日の閣議後の記者会見で、行政手続きのハンコ廃止を地方自治体でも推進する考えを示した。福岡市など押印廃止の先行事例を参考にしたマニュアルを作成し、自治体に配布する方針だ。

河野氏は「国で押印廃止を進めているが、市役所で押印が必要な手続きはまだ残っている」と指摘した。「廃止を実現した自治体の経験を横展開したい」と述べた。

電子版の記事がすべて読める有料会員のお申し込みはこちら

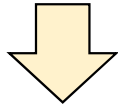
有料購読のお申し込み

行政のデジタル化に注目が高まる

ポストコロナ時代の新しい未来 (経済財政運営と改革の基本方針2020より)

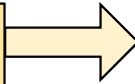
1. 「新たな日常」構築の原動力となる
デジタル化への集中投資・実装とその環境整備
(デジタル・ニューディール)

次世代型行政サービスの強力な推進
デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
新しい働き方・暮らし方
変化を加速するための制度・慣行の見直し



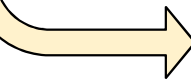
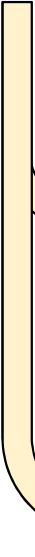
2. 「新たな日常」が実現される地方創生

東京集中→多核連携型
地域の躍動につながる産業



3. 「人」・イノベーションへの投資の強化

教育への投資
科学技術・イノベーションの加速



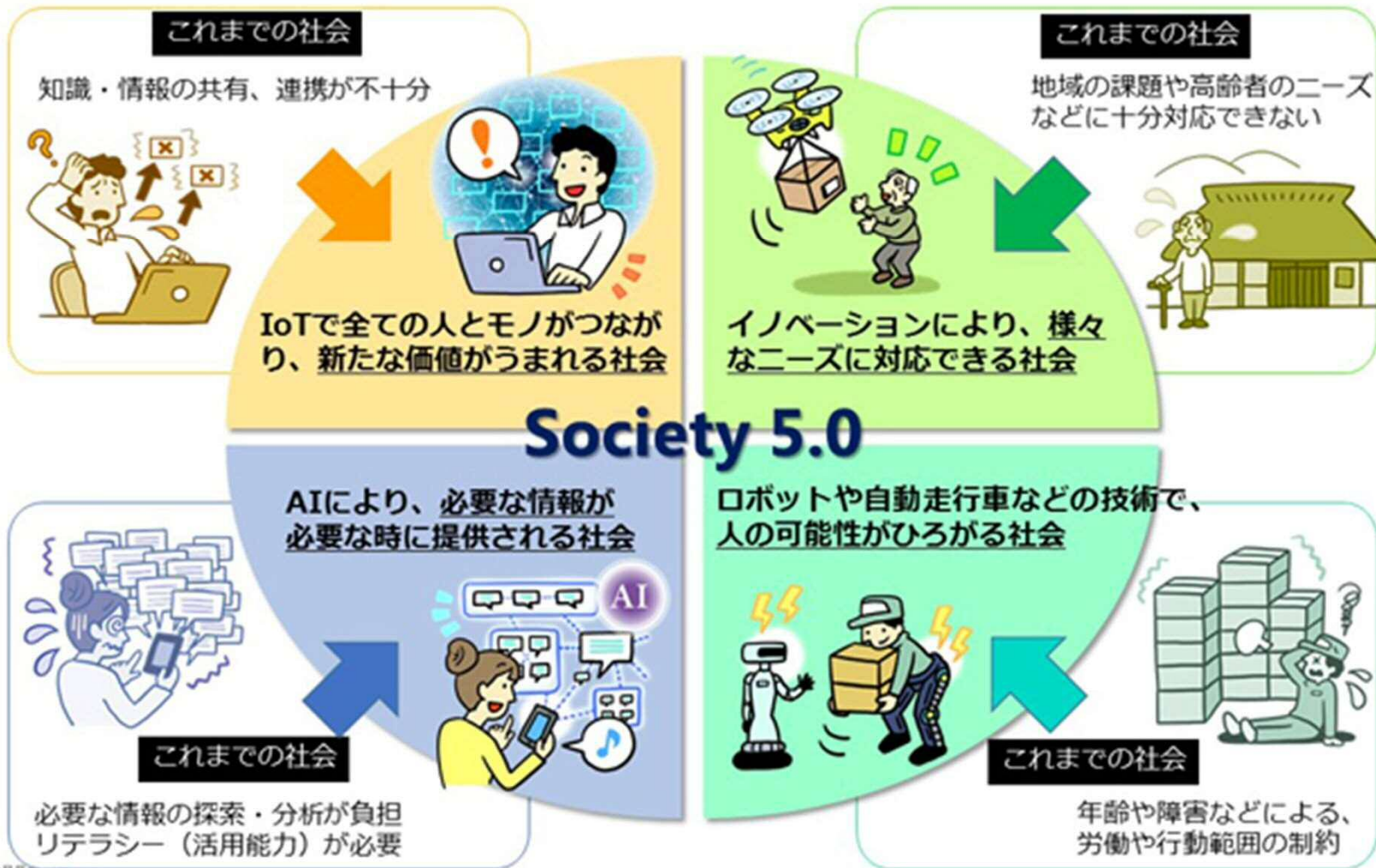
4. 「新たな日常」を支える包摂的な社会の実現

社会保障の再構築、データヘルス改革
社会的ファイナンスの活用



5. 新たな世界秩序の下での活力ある日本経済の実現

自由で公正なルールに基づく国際経済体制
サプライチェーンの多元化
SDGsを中心とした地球規模課題への貢献



[内閣府作成]

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/



快適



必要なモノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供

サイバー空間とフィジカル空間を
高度に融合



Society 5.0



活力

質の高い
生活



経済発展と社会的課題の解決を両立

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

Society 5.0 を実現するための様々な課題

- 変化の早い技術を、どのようにキャッチアップするのか？
- 人々の働き方、サービス提供のあり方をどうデジタル化していくのか？（DX）
- サービス開発において、競争分野と協調分野をどのように線引きするのか？
- 長期的な利益と短期的な利益をどのようにバランスさせるのか？
- 市民の理解や参加をどう促していくのか？

Society5.0は、「結果としてなっている」もの

- 手段を目的化してはいけない
- 住民の福祉を守るのが行政
- 多様な住民の福祉を、どう守るのか？
- 行政だけでできないことを、市民や企業がカバーする
- 「参画のデザイン」を通じて、プレイヤーを増やす

Society5.0は、「結果としてなっている」もの

- 手段を目的化してはいけない
- 住民の福祉を守るのが行政
- 多様な住民の福祉を、どう守るのか？
- 行政だけでできないことを、市民や企業がカバーする
- 「参画のデザイン」を通じて、プレイヤーを増やす

国よりも、住民に近い自治体があったほうが早い！

地域のガバナンスを変える必要がある

ガバナンス = 「統治」

本報告書は、サイバー空間とフィジカル空間の融合により社会構造が変化する中で、新たなガバナンスモデルの必要性と、政府、企業、コミュニティ・個人の各主体の役割を提示している。

「ルールベースの法規制」から、「ゴールベースの法規制」へ

GOVERNANCE INNOVATION

Society5.0の実現に向けた
法とアーキテクチャのリ・デザイン

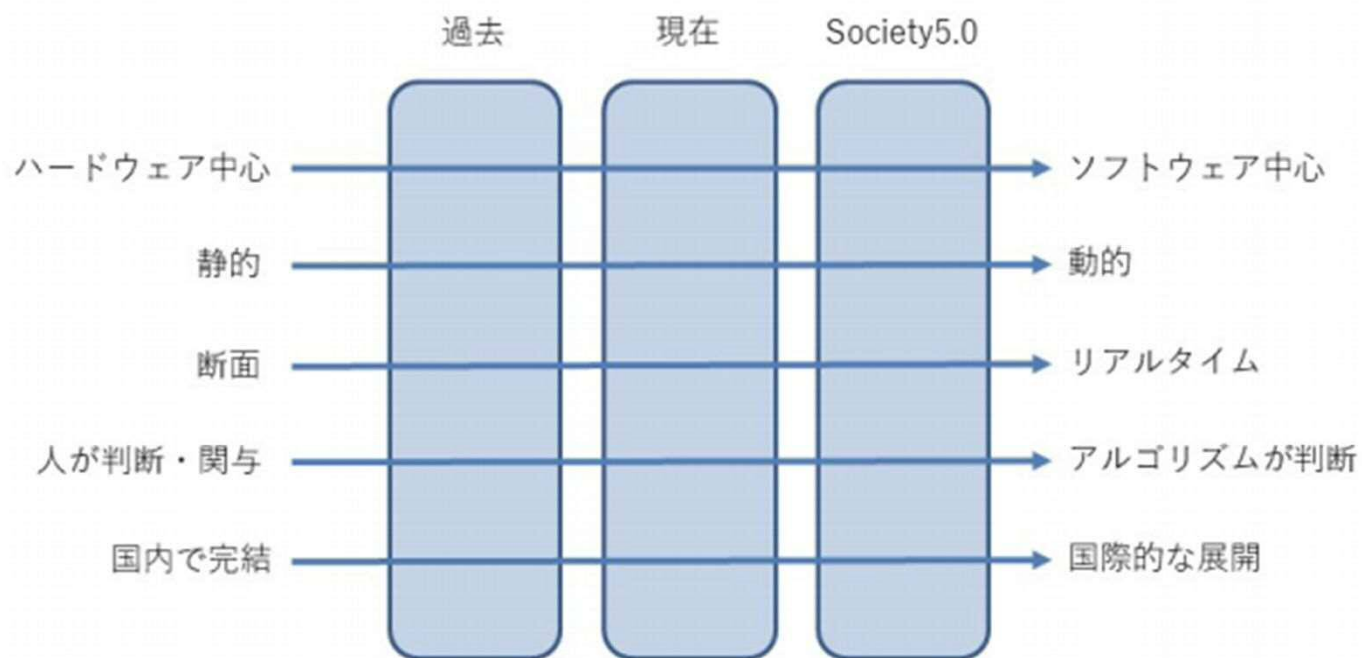


Ver 1.1 JP

<https://www.meti.go.jp/press/2019/12/20191226001/20191226001.html>

前提：ソフトウェア中心、動的、リアルタイム

図3.2 | Society5.0における社会構造の変化

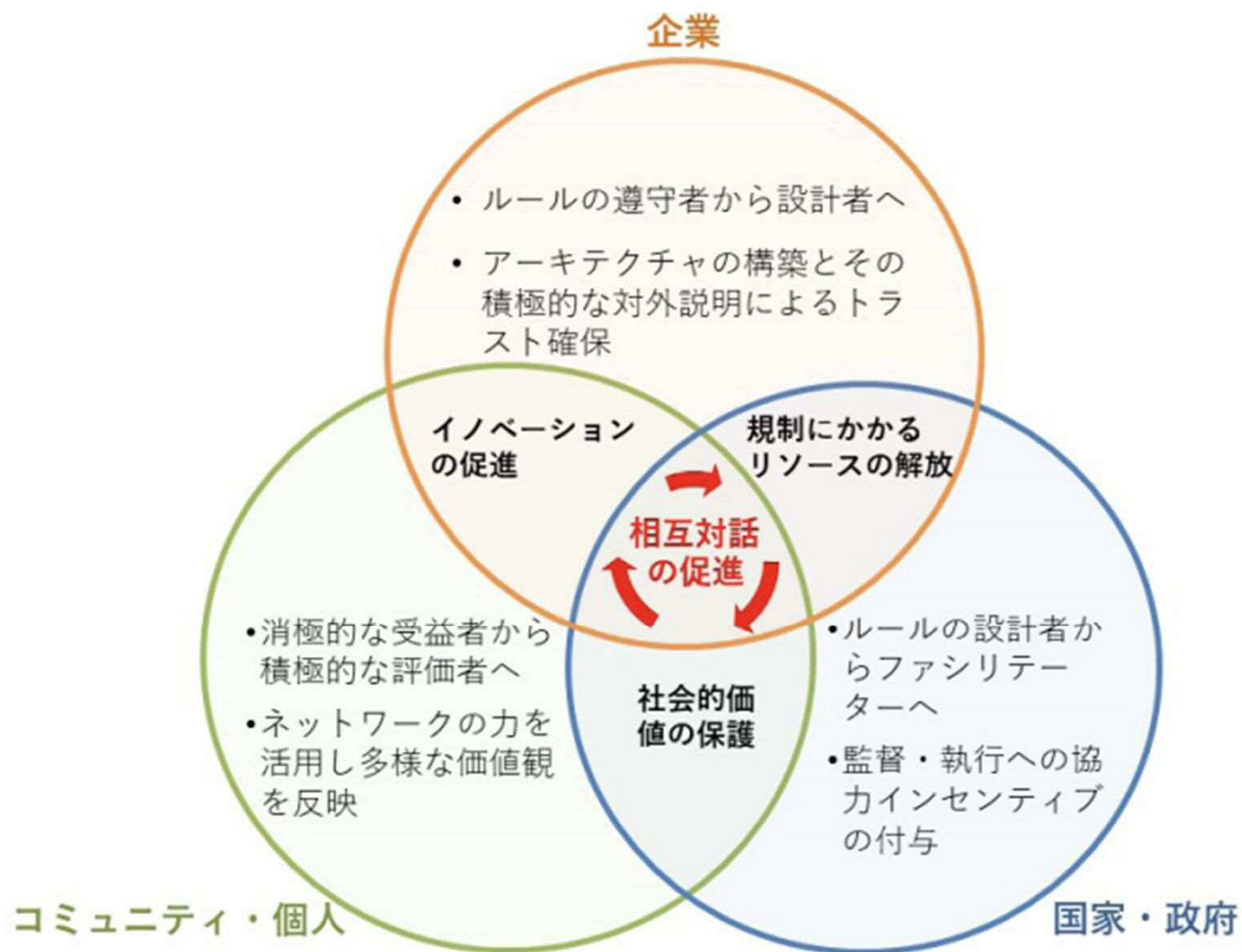


前提：未来は予測できない

つまり・・・

- 先にルールを決めることはできない。→目指す姿を決めて、動きながら軌道修正する
- 未来が予測できない→たくさんの実験を行い、その結果から学ぶことが必要。学ぶためのデータが必要
- 「従来のやり方」が通用しない。→同じやり方に固執するのは逆にリスク
- 「経験があるから失敗しない」わけではない。むしろ経験が足かせになることがある→多様性を尊重し、ともに考えることが重要（若者、女性、外部の人材、マイノリティ）
- 多様な人に主体的に参加してもらうには、腹落ちしてもらうことが必要→透明性を高め、信頼関係を結ぶ必要がある

図6 | ガバナンス・イノベーションにおける各主体の役割の変化



浜松市に期待されること

- 進取の気風、「やらまいか」
 - まずやってみる、そして修正する
- 国土縮図型都市
 - 多様なフィールド、生活、文化
- 多様で豊かな観光資源や自然環境
 - RE100目標
- 予防・健幸都市浜松
 - 健康寿命日本一

Ⅲ 将来像／目指す方向性（基本理念）／必要な視点／基本原則

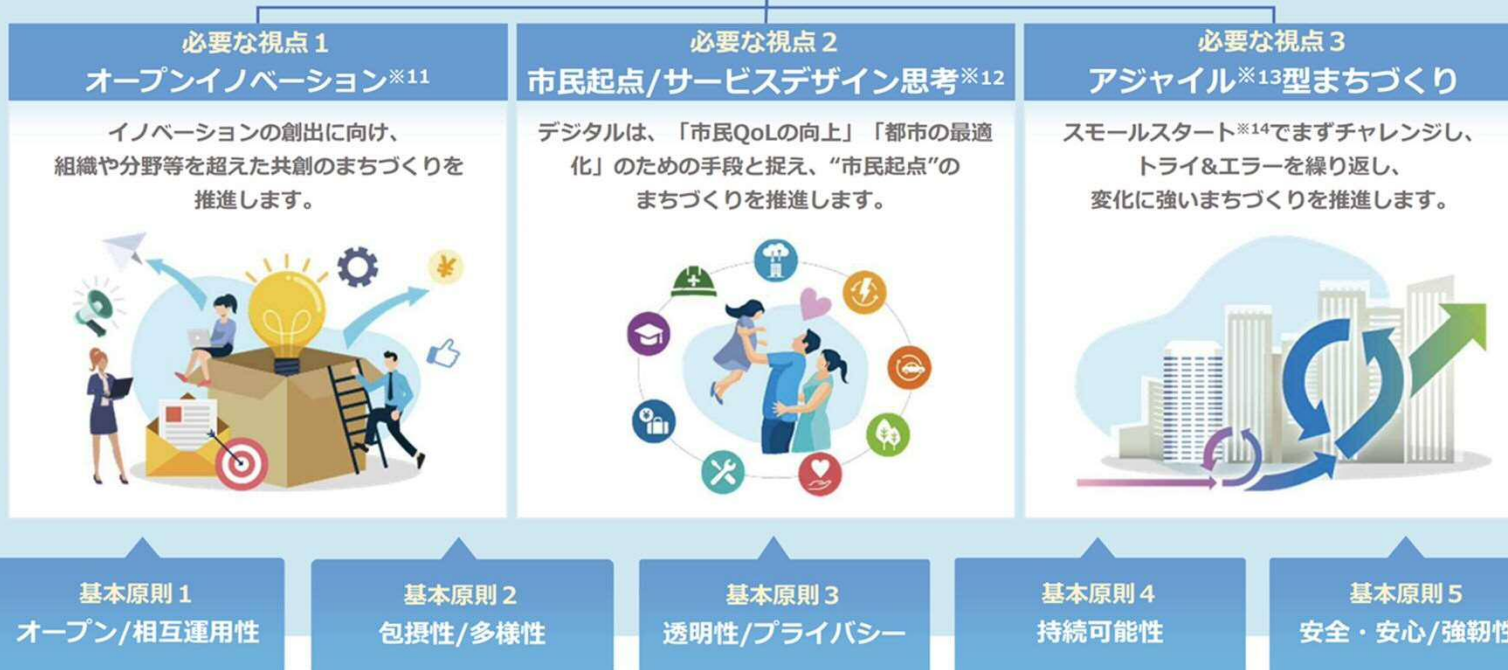
将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

「市民QoL^{※9}の向上」と「都市の最適化^{※10}」



オープンイノベーション

オープン+革新

囲い込み戦略ではなく、多様なプレイヤーとともにサービス開発を行うこと

組織や分野等を超えて共創するのに必要なことは？



オープンイノベーション

オープン+革新

囲い込み戦略ではなく、多様なプレイヤーとともにサービス開発を行うこと

組織や分野等を超えて共創するのに必要なことは？

ビジョンの共有と、信頼関係の構築

浜松をどのような地域にしたいのか？についてとことん語り、「ともにつくる」環境づくりが有効。

何をしたいか、ではなくどういう未来を子どもたちに渡したいか



市民起点・サービスデザイン思考

市民を中心に考える

デジタル化は手段にしかすぎない。
最大多数の最大幸福から、最大多様の最大幸福へ

何を提供したいか、ではなく、市民は何を求めているか？

市民とともに考え、つくる環境が必要。

市民目線での目標づくりと、市民からのフィードバックを得る仕組みをつくる



オーストラリアの基準

各都市のLiveability（生活のしやすさ）を指標化して比較。

徒歩での生活のしやすさ、アルコール、健康的な食べ物、公共交通、社会的サービス、オープンスペース、仕事、住宅などの入手のしやすさをインデックスしている

What we measure

The Healthy Liveable Cities Liveability Index is underpinned by eight years of research. It combines nine indicators of liveability found to be associated with health and wellbeing outcomes. Details on the methods used can be found on the metadata page, and on the provided links.



アジャイル型まちづくり

アジリティ＝俊敏さを上げることで、不確実性をマネジメントする

全ては仮説。最初に物事を決めすぎずに、仮説を検証するツールを開発すると考える。動くことで理解が深まる。

フィードバックサイクルを元に改善していく。必要ないものは作らない。

人月型ビジネスとアジャイルの相性は悪い。（問題を解くのに時間をかければかけるだけ儲かる）→ビジネスモデルを変える必要がある。

必要な視点3

アジャイル※13型まちづくり

スモールスタート※14でまずチャレンジし、
トライ&エラーを繰り返し、
変化に強いまちづくりを推進します。



DX推進にはスピード感が必要

- 「早く失敗して、経験値と実感を得ること」こそが価値
 - 後発になれば、だんだん失敗できなくなる
 - 複雑性の増大
 - 見えてくるものが増えると意思決定しにくくなる
 - 失敗は、なかなか共有されず分からない
 - 「きれいに見せよう」とすることから自由になろう
 - 「失敗していいよ」は上役（究極は、首長）しか言えない

DXってなんだろう？

- Digital Transformation

- Digitization とは違う。

- デジタル前提で**サービス提供のあり方を変革すること**

- 「私はITのことはわからない」は禁句！

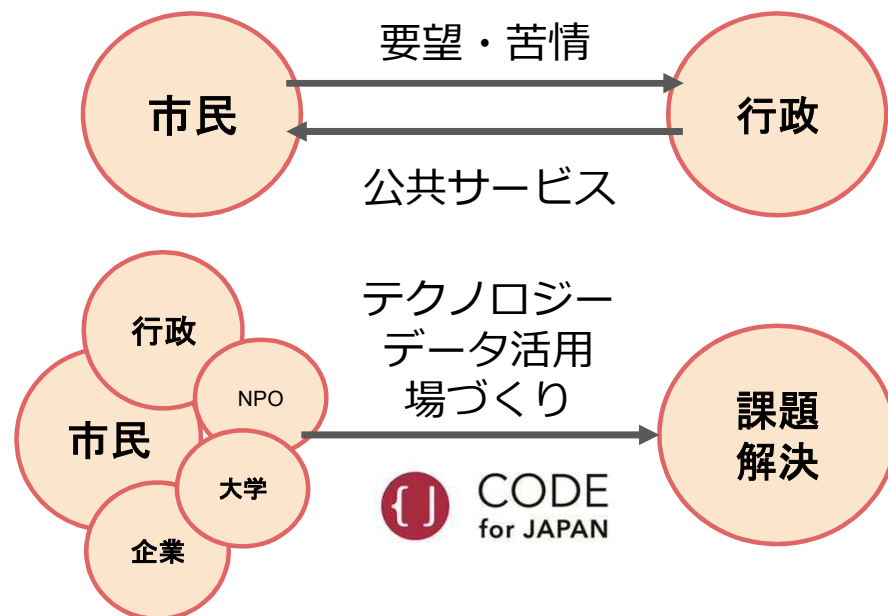
- ITの話ではなく、顧客（市民）体験を起点に考えて仕組みを替える話

どうしたら、失敗から学べるのか？

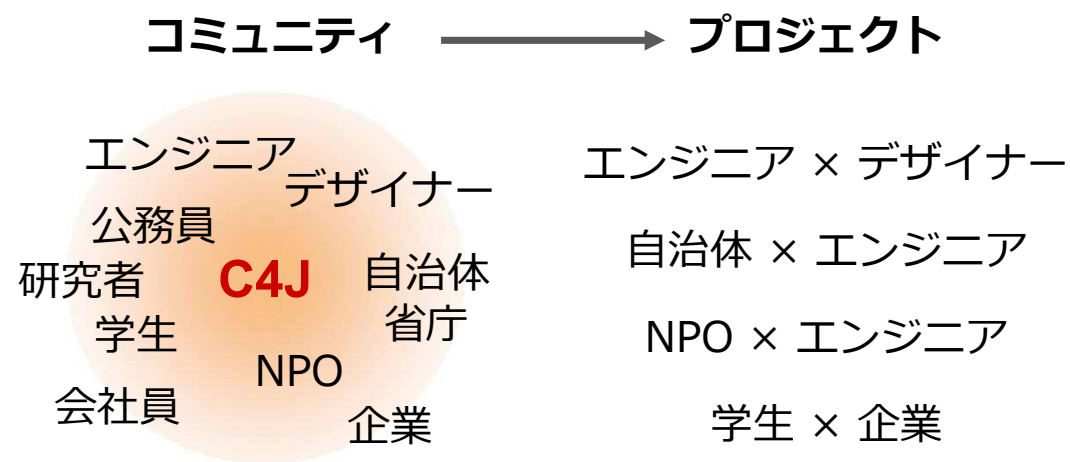
- 失敗のコストを下げる
 - 最初から失敗を計画に織り込む
 - 小さく始めて、徐々に大きくする
- 実施したことから、学習する仕組みを作る
 - 100%の失敗というものはない
- 若手を中心にし、管理職はフォロワーシップを発揮する
 - 「責任は俺が取るから、思い切ってやってみろ」と言えるか？

オープンにつながり、社会をアップデートする

シビックテック・アプローチ：
公共モデルを「依存」から「共創」へ



シビックテック・エコシステム：
コミュニティで築いた関係性をもとに
プロジェクトを創出





世界26カ国で「Code for xx」が活動



OUR PARTNERS

Code for All is a collaborative network, made up of organisations from all over the world.

全国、約 80 地域で「Code for xx」が活動



各地で自らの地域を良くするための活動

CODE for SAPPORO
www.codeforsapporo.org



Code for Aomori



Code for SAITAMA

Code for SENDAI

CODE for KUMAGAYA

Code for Chiba



Code for Funabashi

code for matsudo

Code for Tokyo

CODE for SUGINAMI

CODE for SETAGAYA



Code for Chuo

Code for Toshima

Code for Nerima



Code for Hachioji



CODE for KAWASAKI



code for YOKOHAMA



CODE for TOYAMA CITY

CODE for NANTO



SOLVE OUR PROBLEM
Code for Nagoya



Code for Kusatsu

Code for Nara



Code for OSAKA

Code for Sakai



CODE for KOBE

Code for Sasayama + Tamba

Code for Kurashiki

Code for Hiroshima



Code for Fukuoka

Code for Saga

コロナ禍で生まれた様々なアクティビティ

ダッシュボード



アイデア募集

新型コロナウイルスと戦う意見募集サイト

VS COVID-19 IdeaBox

アイデア募集 268人

- 6. 資源・代替品
- 2. 外出自粛への対応

アイデア一覧 (137) | 最新コメント (235)

検索サイト

VS COVID-19

#民間支援情報ナビ

リアルタイム翻訳ツール

Face to Face の会議、Microsoft Teams、Skype for Business、Zoom、Cisco Webex、その他の Web 会議ツール、IP 電話などで話した内容をリアルタイムにテキスト翻訳、文字起こしします。

NPO支援

流山テイクアウトマップ

テイクアウトしてお家で店の味を楽しもう

流山テイクアウトマップ運営に寄附をお願いします

プロトタイピング

LINE公式アカウント

POPULO 生活相談ナビ

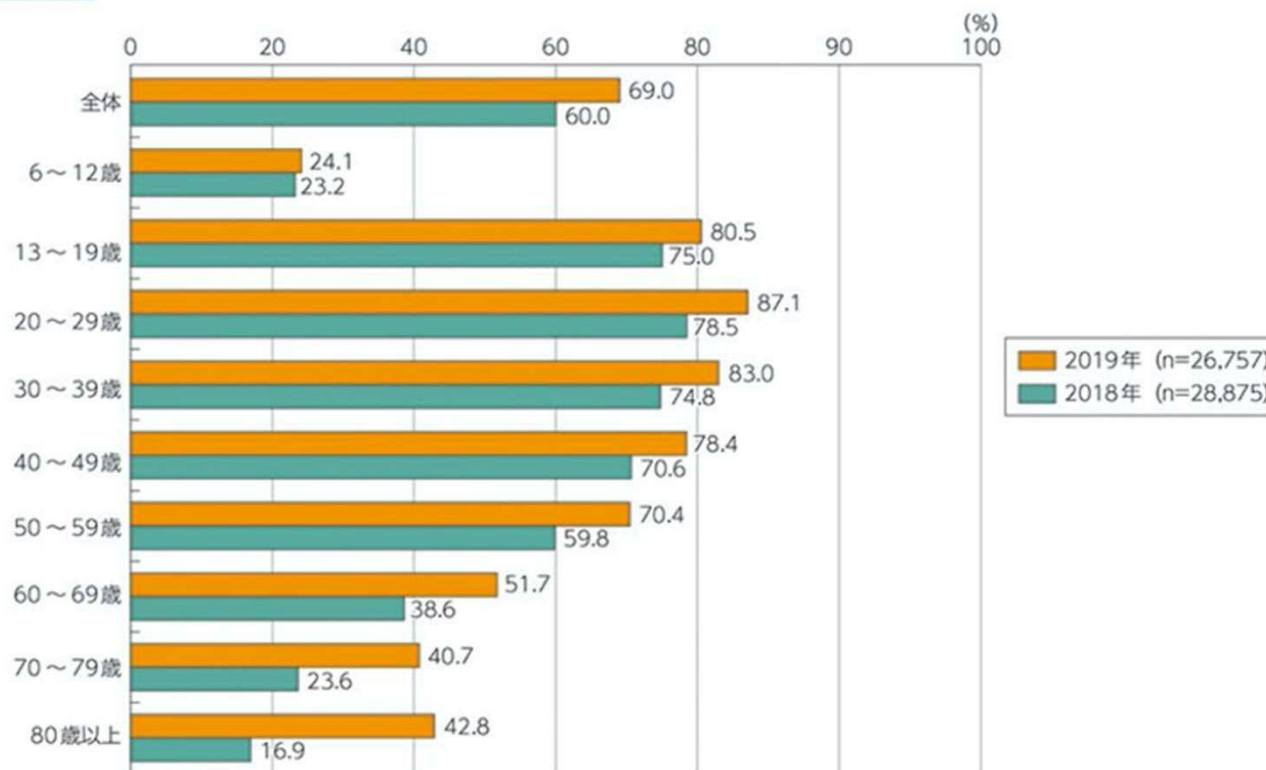
接触確認アプリ まもりあい Japan

あなたのお悩みに合わせてご相談できる連絡先をご案内します

LINEで友だち追加

本当に「お年寄り」はデジタルを使いこなせないのか？

図表5-2-1-9 年齢階層別ソーシャルネットワーキングサービスの利用状況

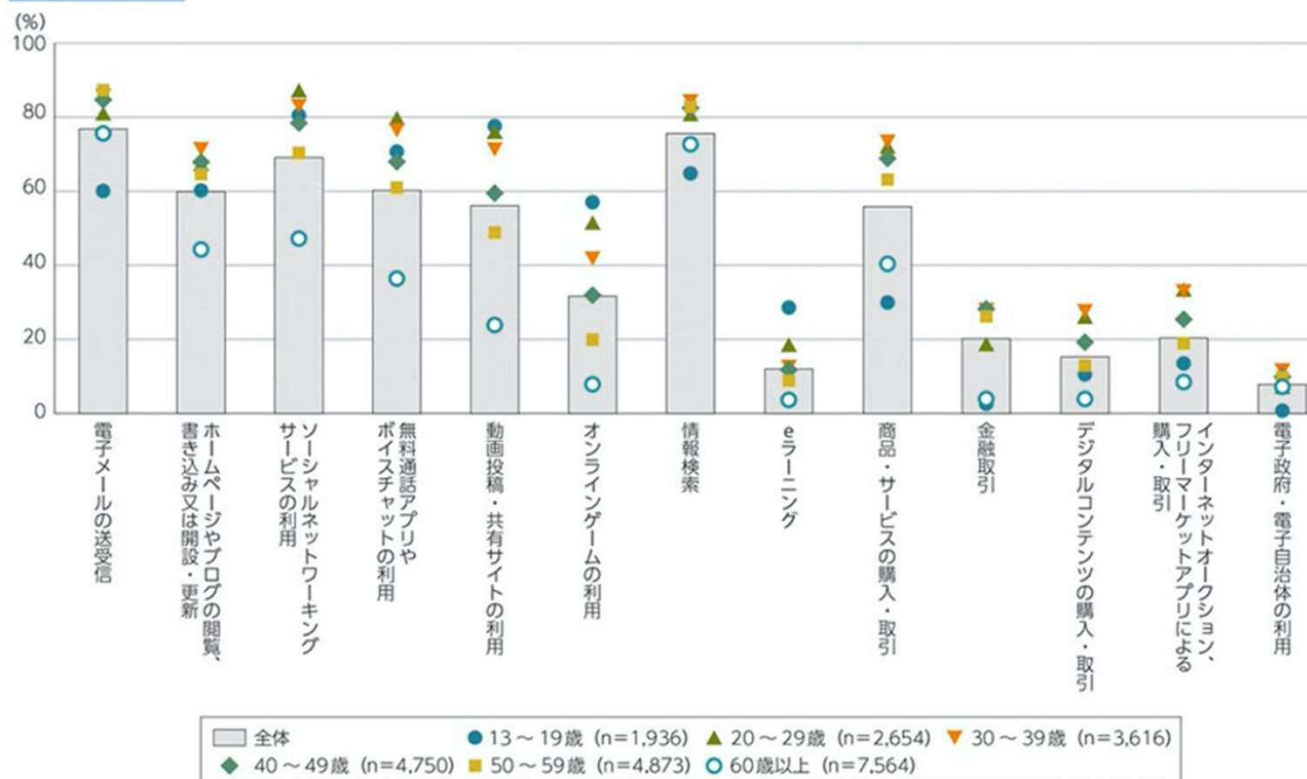


(出典) 総務省「通信利用動向調査」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

本当に「お年寄り」はデジタルを使いこなせないのか？

図表5-2-1-8 年齢階層別インターネット利用の目的・用途（複数回答）（2019年）



（出典）総務省「通信利用動向調査」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

それでも、デジタルに対応できない人はいる

自治体として、「誰一人取り残さない」ことは重要
デジタルオンリーにするわけではない！

- デジタル対応できる人は、デジタルにしてもらう
 - そちらのほうが、ユーザにとっても便利
- バックエンドもデジタル化する
 - 職員は研修をして底上げする（仕事ですし）
 - アナログ業務は共同で外注してしまう手も
- デジタル化して空いた作業を、アナログな対応に当てる
 - 手続きのためのアナログ作業は、価値を産んでいない

そのアナログ業務、
市民に対して価値を
生んでいますか？

まとめ

- Society5.0 は「結果なっているもの」
- 未来は予測できない。美しい設計図よりも、行動が大切
- 「ガバナンス」の仕組みを変える必要がある
- 多様な市民とともに考え、ともにつくる（オープンイノベーション）
- 市民目線のKPIを作り、サービスの設計を進める
- 不確実性に対応する手段は俊敏さ
- 求められているのはトランスフォーメーション
- とともに考え、ともにつくっていこう